

プリントショップの店頭で写真の出来を聞く晴着のお客に「美しい人はより美しく、そうでない方は、それなりに写ります」と店員が答えるテレビCMがあった。今となつては物議を醸しそうだが、現実にはあり得ないこの両者のやり取りが1980年当時は話題を呼び、「それなりに」もはやり言葉となった。

近年文科省が使う言葉に「個別最適な学び」がある。「誰一人取り残さない」ために、個に応じた学びを提供することを言うらしく、それには取り立て文句はない。しかし、2019年大学入試に関して「身の丈に合わせてがんばってもらえば」との萩生田文科相（当時）の発言（直後に撤回）を聞くにつけ、教育機会の格差を容認・肯定・促進するような為政者側の本音が透けて見えて、無性に腹が立つ。

限られた社会資本を有効に活用するためにごく一部の人材以外は「それなりに」、というのが「個別最適な学び」の正体ではないか。最近では、頭に「公正に」をつけたり、「協働的な学び」と抱き合わせにしたりして、文科省も理念の補強(?)に躍起のようだが、教育現場では「今回のキャッチコピー」程度の受け止めが現状のようだ。

ところで、プリントショップが街でめつたに見られなくなってから久しい。デジカメの登場によるものだろうが、それも今はスマホに切り替わりつつある。年末恒例の「お正月を写そう」で始まるあのCMの会社も、今では医薬・化粧品が主力商品だそう。近い将来多くの人の仕事をAIとロボットが奪うという英国研究者の論文（「雇用の未来」フレイ&オズボーン2013）を引いて、不安を煽る進路指導及び営業手法がひと頃猛烈にはやった。しかし、落ちついて考えれば、社会の変容で仕事のあり方が変わるのは当然のこと。講師自身も予測のつかない近未来像を得意そうに吹聴し、若者の不安を煽りたてる「進路講演」は、無責任極まりなかった。

矢継ぎ早に打ち出される教育施策の大半が、その時々が発案者の「凡庸な思いつき」と「大人の都合」であることが徐々に明らかになっている。あつという間に廃れる「キャッチコピー」などに振り回されて消耗するよりも、目の前の子どもたちの声に耳を傾けながら自分の頭で考えて行動する教育現場の人たちを、これからも私たちぐんま教育文化フォーラムは応援していきたい。

### 今後の主な予定

11月 4日（金） 13時～	スタジイ楽書会
11月 11日（金） 14時～	原発と自然エネルギー研究部会
11月 12日（土） 11時～	3色パステル画寺子屋
11月 18日（金） 13時～	スタジイ楽書会
12月 2日（金） 13時～	スタジイ楽書会
12月 4日（日） 14時～	近現代史ゼミ（前橋市総合福祉会館）

#### 育ちと学び No.53 ぐんま教育文化フォーラム

2022年10月21日 発行  
〒371-0026 前橋市大手町3-1-10 群馬県教育会館3F  
[TEL・FAX] 027-235-8876  
[E-mail] forum.gunma@gmail.com  
[URL] <http://gkb-forum.sakura.ne.jp>



スマホからホームページへ

